

佐久地域懇談会 ご意見（概要）

令和4年3月末日

佐久地域振興局企画振興課

1 佐久地域の魅力（強み）

- 首都圏からのアクセスがよい
 - ・ 北陸新幹線・上信越自動車道・中部横断自動車道など、高速交通網が整備。
 - ・ 首都圏へ通勤・通学が可能であるにも関わらず、自然豊かで田園や山岳など美しい景観や昔ながらの原風景が広がる。訪れやすい「田舎」。

- 自然環境、資源が豊か
 - ・ 夏が冷涼。
 - ・ 年間を通じて晴天率が高い。雨量が少ない。
 - ・ 豊かな水資源を有している。
 - ・ カラマツ林をはじめ森林資源が豊富。
 - ・ 浅間山をはじめ、多くの山岳に囲まれている。
 - ・ 温泉が多い。
 - ・ 景観がよい。

- 農業、林業等がさかん（上記特長を活かして）
 - ・ 米、野菜、果樹、花き産等の多品目にわたる総合供給産地。
 - ・ 上質なカラマツ材が生産されている。
 - ・ 日本酒の種類数が多い。
 - ・ 太陽光発電など、自然エネルギーの地産地消が可能。

- 保健衛生が充実
 - ・ 患者に寄り添い、丁寧な医療が提供されている。
 - ・ 大規模病院から中・小医院までの医療体制が充実しており、平均寿命も長い。

- 暮らしやすい
 - ・ 大規模災害が少ない。
 - ・ 自然と隣り合っただけの生活やそこそこの利便性がある。程よい「田舎」。
 - ・ ユニークな保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校の開園や開校が続いている。子どもの教育のために移住してくる方も多い。
 - ・ 子育てには大変よいところ。

- その他
 - ・ 広い平野があるため、土地開発計画が容易。
 - ・ 県内の他地域に比べて、相対的に地価が安い。

- ・ 人が良い。外部の人に対する受容力が高い。
- ・ 新たな事業（飲食・サービス業など街中への出店、ワインぶどう栽培、ワインやウイスキーの醸造所建設、運営等）が起こっている。

2 佐久地域の課題

○ 人口減少

- ・ 同じ佐久地域においても、人口に偏りが生じている。町村部の人口減少。
- ・ 過疎化の進行。
- ・ 空き家、空き店舗の増加。（「空き家や空き店舗が「見える化」されていない」や「住居が少ない」といった意見もあり。）
- ・ 就業場所の整備、確保。

○ 農林業

- ・ 農業従事者の高齢化、後継者・担い手不足。
- ・ 遊休農林地の再活用。
- ・ カラマツについて佐久地域での地産地消が低い。
- ・ 南佐久地域では、農業以外の勤務先が少ない。

○ 発信力

- ・ 地域の良さが認識されていない。
- ・ 地域の魅力を上手に PR できていない。
- ・ 認知度、知名度が低い。
- ・ ブランド力が弱い。

○ 教育

- ・ 中学、高校以降に子供にとって魅力的な選択肢がない。
- ・ 私立学校に注目が入り、公教育の発信がされていない。
- ・ 小学生や中学生たちの表現不足。子ども達の自己肯定感の低下。

○ 公共交通

- ・ 小海線の乗車率の減少。
- ・ 二次交通が少ない。デマンドバスなど公共交通機関の充実が必要。

○ インフラ

- ・ 中部横断自動車道開通によるリスクの議論が行われていないようで不安。
- ・ 交通網の整備。
- ・ 水害対策。
- ・ 下水道整備が整っていない。

○ その他

- ・ 食生活の課題（食塩のとりすぎ、若者や働き盛り世代の野菜摂取量が年々減少）。
- ・ 佐久地域内でも賃金格差、教育格差、文化的な格差が生じている。
- ・ 各市町村における独自性はあると思うが、地域全体としての特長、一体感になっていない。

3 期待すること

○ 人口減少対策

- ・ 人口（定住、交流、関係）増加のための政策
- ・ 2025年の合計特殊出生率 1.84の実現可能性の検証
- ・ 都心⇄地方の2拠点居住のロールモデル

○ 農業

- ・ 農業の再生
- ・ 農業所得の増大と地域農業の振興
- ・ 「食」と「農」を基軸とした地域の活性化
- ・ 第6次産業としての農業を育てる施策（「成功した人は本当に少ない」との意見も）
- ・ 休耕地活用のため、農業従事者を増やす施策
- ・ 自然エネルギーを活用した通年型農業
- ・ 農業経営の法人化を促進
- ・ 農地整備を推進して機械化農業
- ・ 佐久地域内食糧自給率の向上
- ・ 信州の果物を集積したオンライン通販
- ・ 農業以外の稼ぎを得るための体制整備
- ・ 地元の農業の方の学びを伝えたり、畑を貸す仕組み
- ・ 半農半X、農ある暮らし
- ・ 野菜のブランディング

○ 林業

- ・ 循環型林業（伐って、使って、植えて、育てる）の構築
- ・ カラマツ資源の有効活用に向けた加工施設の設置
- ・ 森林経営管理制度に基づく、民有林（特に個人有）の経営管理の再構築
- ・ 木材生産だけでなく関連産業の育成

○ 環境・エネルギー

- ・ ゼロカーボンの実現
- ・ 恵まれた資源を活かして環境先進地域になる
- ・ 地域でエネルギーを分け合える仕組みと補助金制度の創設
- ・ 地域新電力の構築
- ・ 小河川を利用した水力発電

- ・ 多くの自然財産を守り抜く
- 産業
- ・ 既存製造企業の今後の方向性、佐久地域の保有技術を生かしどのような分野、業種に転換していくことが望ましいのかなどの旗印が必要
 - ・ 企業誘致等で職業選択肢を増やす
 - ・ 専門大学や工場の誘致
 - ・ 工場ではなく、IT企業の誘致
 - ・ 南部5町村にも外部より企業を誘致
 - ・ IT人材の育成
 - ・ 退職者、専門技術者の活用
- 観光
- ・ 軽井沢への観光客を他地域まで広げる。また、それに対する事業者への支援
 - ・ コーディネーター（住民と旅行者をつなぐ人）の存在
 - ・ 自然そのものを活用できる自然体験型ツアーの開催
 - ・ 長期滞在型の山岳観光の発展（登山道整備・登山ガイド・自然ガイドの育成・景観の保護等）
 - ・ 成功している地域への視察と勉強会
 - ・ 駅前にあるビジネスホテルからのシャトルバス運行
 - ・ 星やお酒を組み合わせたバス旅行
 - ・ マップ作成（食の魅力と絶景、酒・ワイナリーめぐり等）
 - ・ 小海線に乗車して沿線の酒蔵を見学
 - ・ 振興局による実証実験やプロモーション
 - ・ 任期中の地域おこし協力隊員に対して、経営の知識を勉強させてあげる
 - ・ 朝の気球
 - ・ 数を狙う観光ではなく、質の良いものを少数のお客様に楽しんでもらう
 - ・ マーケティング・ブランディング、ターゲットの分析、ヒアリング
 - ・ 計画に沿った商品を作る事業者への支援（広告費補助）
- 教育
- ・ 小規模でも充実した教育環境を整備
 - ・ リカレント教育（社会人の学び。学校教育からいったん離れたあとも、それぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていくこと。）
 - ・ 親子での自然体験
 - ・ 佐久地域クラフトフェア
 - ・ 0歳～小1、2年の教育支援
 - ・ 学校と地域コミュニティの連携の推進
 - ・ 故郷学習の充実

- インフラ
 - ・ 道路網の整備
 - ・ 中部自動車横断道と並行する農免道路の同時開通
 - ・ 災害に強いまちづくり
 - ・ 水田を大雨時の遊水地として利用する。
 - ・ 無電柱化
 - ・ 5Gなど先進技術を地域全体で利用可能とする。
 - ・ 大雨による土砂流出を防ぐため、山の管理が必要。
 - ・ 千曲川治水対策として、「自然ダム」（田んぼダム・森林管理）の推進

- その他
 - ・ 豊かな森林資源を活用した持続可能な脱炭素型ライフスタイルへの転換
 - ・ 観光エリア及び仕事ができる施設のネット環境を整備
 - ・ 企業誘致よりは、医療、子育て、環境が充実した街になってほしい。
 - ・ 保育施設の充実、子供のスポーツ、勉強に力を入れる。
 - ・ 公共交通機関の充実、確保
 - ・ 「貧困」「生活困窮者」への支援対策
 - ・ 転入者に地域の魅力を伝えるため、歴史や文化を本や展示でPR
 - ・ 最後まで住み慣れた地域で過ごせる人が多い地域に。
 - ・ 幸福度が高いと感じられる地域、自分がその地域において価値があると思える地域に。
 - ・ 自分が好きだと思って地域に住んでほしい。人が集まってくるのはそのような地域が多い。

- 現行の佐久地域計画に対する意見
 - ・ 県（地域振興局）と市町村との役割や分担が良くわからない。
 - ・ 商工業の振興策についての具体的記述が少ない。
 - ・ 商業や工業の産業振興にほとんど触れていない。
 - ・ 「自然」「環境」の言葉がなく、残念。